



手熊っ子平和だより

令和7年度
長崎市立手熊小学校
7月8日
平和担当

被爆体験講話（6月30日）



今年の被爆体験講話には、語り部の先生を講師としてお招きし、当時の様子やご自分の体験談、そして平和への思いについてお話を聞くことができました。

まず、子どもたちが理解しやすいようにと、3個から70000個に増え、やがて12720個へと減っていった核兵器の数の変遷と世界情勢を分かりやすく説明してくださいました。

次に、1945年3月から終戦までの状況について語られました。東京、大阪、名古屋などの大都市を手始めに空襲が始まり、日本全土へ広がっていったこと。その間の日本と各国との駆け引き、緊張感のある外交についても教えてくださいました。日本が無条件降伏をなかなか受け入れようとしなかったこと、ついには、原子爆弾が広島、長崎に落とされたこと。そしてその威力、怖さ、人々の苦しさについて、ご自分の体験をもとに語られました。

住んでいた立山に火傷を負った人たちがたくさん逃げてきたことや長崎の町が燃えていたことなど当時6歳だった先生にとって強烈な記憶として残っているそうです。浦上川に人間堤防ができていたことや、城山小学校の校庭が、人を焼くための場所となっていたことなど、このお便りでは、書きつくすことのできないほどのお話をしてくださいました。先生は、何度も言っていました。「ここで聞いたお話をお父さん、お母さんに話して伝えて！」と。「平和はみんなで作るもの」だと。



児童のお礼の手紙より抜粋

～今日、ぼくは、伝えるという事と、今では核兵器を持っていた方が安全ではと思っていました。ですが、先生の話聞いて絶対持ったらだめと思いました。なので、今から勉強をする中で、どうやったらなくすかを考えて行動します。みんなに伝えていきたいと思います。（前後文略）～

～私が心に残ったのは、自由がなかったことです。私は、カウンセラーの先生になるという夢をもっています。でも、自由がなかったあの時代では、私は看護師さんになるということしか選択がないと聞いて、そうだったら、自分は苦しいと思います。私は、自分が聞いたことを自分の頭で考え、いろんな人に伝えていきたいと思いました。（前後文略）～

今年もまた8月9日がやってきます。手熊小学校でも、平和集会が行われます。5年生を中心に平和への思いを新たにしていきます。お時間があられるご家庭は、ぜひ、学校へ足をお運びください。